

「過ちを認める勇気」

241101

～あるクラスの学級通信より～



過ちを認める勇気

「車にボールぶつけちゃった」小学生が謝罪、親も駆けつけ誠実な対応に感激「娘もこういう子に育ってほしい」

「クソ感心した出来事あったし載せとく 学校行きしなにコンビニ寄って出てきたら小学生 4人組がすっごい申し訳なさそうな顔して待ってて、聞いたら車にボールぶつけちゃったと」

「でも傷全然無かったし、車両保険も加入できへんぐらい古い車やから、いいし遊びに行き～って言うてたら 自分のスマホで親呼んだらしくて 10分ぐらいで親も来てしっかり謝罪と警察呼ぶかまで聞いてくれた。

親がまともやと子もそれに倣うんやろなあとひたすら感心。あと今の子は小4でマイスマホ持ってんねな 小4の時の自分がこの立場なら、間違いなく何も言わずに逃げると思う 偉いなあ」「24年落ちの古～い車やけど、それなりに大切にしているからボール当てられるのはそりゃ嫌よ？でも、彼らからしたら見知らぬ人の車やし、声かけるのも相当勇気いったと思う。勇気出して正直に言ってくれたことと対応の誠実さ（親御さん含め）で怒りなんか吹っ飛んだし、むしろこちらが勉強させられた」

道徳の授業で行った、「銀色のシャープペンシル」。ふとついてしまった嘘から始まった出来事について考えました。そんな中、ネットニュースでこんな記事を見付けました。

この記事の小学生は、とても立派です。**失敗してしまった自分たちを逃げずに受け止め、きちんと謝罪をする。**そんな行動ができる人は、大人でも案外多くはいません。大人になるにつれて、うまい言葉を知り、ごまかす方法を学び…。その結果、**自分の失敗を素直に認められなくなってしまうのです。自分が失敗してしまったとき、もしくは大変な状況を目の当たりにしたとき、その人の「人間力」が試される**と思います。私自身にも、この小学生の行動がとても心に刺さりました。過ちを認めることは勇気のいることですが、その勇気をだせる人間でいたいと、改めて自分に言い聞かせました。

学級通信を通して担任の先生が伝えたかったこと。私にとっても大切なことを教えてもらった気持ちになりました。誠実でありたい、正直でありたいと願う気持ちを行動に移すことは、時として迷ってしまうこともある。でも、こんな人間でありたいと思わせてくれる話でした。

担任の先生が語りかける言葉には、あなたへの（一人一人への）思いや願いがぎっしり詰まっています。しっかり受け止めて、自分の糧としていってくださいね。